

勉強の出発点は「驚き」

ご入学おめでとう。今世紀に入り、予期しなかったことが起こっています。2008年の世界金融危機、11年の東日本大震災と東京電力・福島原発事故などです。これらが大変なできごとに「驚き」を感じるのが経済学の勉強の出発点です。そして、なぜこんな大事件が起こってしまったのかという謎を解くことが経済学の課題です。「金融」や「発電」は、国民生活を豊かにするためのものだったはずですが、なぜなのでしょう。さらに、



経済学部長 福島 利夫

捨てる1C大切な3C

ようこそ専修大学へ！学問にコンプレックス(Complex)は無用です。新しい学問魂をもった君たちには、なによりこのCを捨てることから始めてほしい。その代わり、以下の3つのCを大切にしてほしい。若さあふれるキラキラの大学時代です。誰にも必ずいるようなチャンス(Chance)がめぐってきます。まずはこのチャンスを見逃さないでほしい。



法学部長 白藤 博行

良いプロセスを探る

入学おめでとう。期待と不安の中でこの日を迎えているのではないでしょう。これまでの、勉強をがんばれば、すぐに良い成績に結びつきました。大学では、がんばって出席するだけでは良い成績につながりません。社会人になってがんばっても普通の評価しかもらえませんが、きちんと取り組むのが当たり前であるとともに、プロセスが問われているからです。



経営学部長 馬場 杉夫

夢中になる何かをつかもう

ご入学おめでとう。今皆さんは、専修大学の学生となって何を感じているでしょうか。専修大学は、君たちがここに居ることと待っていていまから4年間を過ごす居場所です。まずキャンパスをゆっくり歩き、また教室に入って、専修大学の空気に空気を感取ってください。次に何に夢中になるかについて、考え始めてください。



商学部長 佐々木 重人

ネットワークの活用を

ご入学おめでとう。では、入学しておめでたい大学とどんなところでしようか。一つの答えは、大学とはネットワークだといえるのです。例えば、歴史を勉強したいとします。しかし、歴史を深く追究するには、いろいろな背景や技術が必要で、外国語の知識はもちろん、漢文や古文書を読む力、統計的な技法や化学の知識まで必要になります。



文学部長 金子 洋之

情報社会の将来を切り開こう

入学おめでとう。ネットワーク情報学部は文理融合型の新たな学部です。文系入試の人もプログラミングやデザインも学びます。これまでの常識とは無関係に、情報社会の将来を切り開いていく人材育成を目指しているからです。情報に「形を与える」情報デザインや、情報システムとして実現できる技術力、それらを使って生活や社会にこれまでになかったものを提供していく企画力、実行力、それらが自然に身につくカリキュラムと仲間が皆さんを待っています。



ネットワーク情報学部長 江原 淳

「白頭二到ル」道を学ぶ

ご入学おめでとう。家庭学校を創設(明治32年)した留岡幸助の座右の銘は、「白頭二到ル」という言葉です。留岡は同志社英学校神学科を卒業後、北海道の地で教師(刑務所受刑者に対し、徳性の育成を目的とする教育活動を行う人)となり、累犯者の初犯年齢は低く、少年の時期にあることに気づきます。



人間科学部長 宇都 榮子

学部長・大学院研究科長・法科大学院長からの歓迎メッセージ

前向きな取り組みが可能性開く

大学院の勉強には大いなる希望と意欲、そして多少の迷いと不安があると思います。躊躇せず、チャレンジ・トライしてください。扉をたたかなくては、門は開けません。経済学研究科では、さまざまなチャンネルを通して、きめ細かな対応を心がけています。知の伝承・蓄積には謙虚・素直であってください。修士論文・博士論文という成果にいたる過程では、指導教授の先生からだけでなく、やや異分野の先生方や先輩・同輩の諸君からも、積極的に指導・アドバイスを受けてください。要するに、皆さん自身の前向きな取り組みが可能性を開いてくれるはず。経済学研究科ではこぞって期待しています。



経済学研究科長 原田 博夫

努力の先に目的達成の喜び

ご入学おめでとう。ご入学おめでとう。研究者であれ、高度専門職業人を目指すのであれ、研究対象に迫る適切な視角設定、理論的な問題解決の提示は決して容易なものではありません。真摯かつ地道な努力の先に目的達成とそれに伴う喜びがあると思えます。大学院においては、研究に対する主体的な取り組みが要求されることとなりますが、皆さんの研究のために教員を最大限活用することも重要です。研究科のスタッフは皆さんの目的達成を、一丸となって応援します。目指す途がなんであれ、何が根源的価値なのか問われている時代に、大学院という場で、自らの目的達成と関わって、「知」の探求に裏打ちされた価値の発見の途を歩んで頂きたいと思えます。



法学研究科長 平田 和一

学問の醍醐味はこれから

大学院で入学おめでとう。皆さんは、すでに学部でご自分の専攻分野を学び、卒業論文等で成果をまとめたことでしょう。しかし学問研究に本格的に携わるといふ点では今がまさにスタートラインです。大学院は教員の指導のもと、院生同士互いに励ましあい、切磋琢磨しあう場だと思えます。その一方、同じ専門の者が集まる環境では、ある種の心地よさが生まれ、社会から遊離してしまいかねません。常に自分の専門の存在理由を問いつけることも大切です。研究の本当の苦しさと楽しさ、すなわち学問の醍醐味を味わうことが出来るのはこれからです。意欲的に研究にとりくまれるよう期待しています。



文学研究科長 道家 英穂

自分自身との知的格闘

新たに大学院に入学した諸君、入学おめでとう。大学院を志望した時点で大学院とはいかなるところか、理解していると思う。しかし、おそらく多くの諸君の理解は「甘い」のではなからうか。問題意識を持ち、先行研究を大量に読み、いかなる点がポイントか把握する。そしてそのポイントにつき仮説を立て、実証を行う。最後に実証結果について議論する。学位論文作成のプロセスはこのようなものになるケースが多かろう。こうして文字では簡単に書けるが、実際には自分自身との知的格闘といっても良い。脅すようだが、そのサポートをするのが教員であり、仲間の院生である。サポート体制は整っている。思う存分格闘してほしい。



経営学研究科長 廣石 忠司

目標を再確認し努力を

大学院に入学された皆様、心からお祝いを申し上げます。新しい環境下、期待と不安が入り交じっていることでしょう。今大切なのは、皆さんの目標を再確認し、2年後、3年後にはそれぞれの目標や志が成就できるよう小さな努力を続けることだと思えます。大学院では研究に関わる事象の分析とその解決法に強い関心を持ち、先人の研究の分析、自己分析を重んじています。自分自身の喜びと苦悶を経験してください。それが皆さんを一回り大きくさせると思えます。各自の研究努力と指導教員によるアドバイスや協力により、学位を取得されるとき、将来の目標達成に近づきます。よう祈念します。



商学研究科長 上田 和勇

主役になり切り目標を忘れずに

法科大学院に入学された皆さんに、スタッフを代表して歓迎の挨拶を申し上げます。皆さんは、本法科大学院の10期生になります。法科大学院制度を巡って各種の評価があり、残念ですが新入生も減る傾向にあります。しかし、我々は今の教育をしっかり行うことにより、なんとか実績を残すことを考えております。皆さんには我々の意欲をくんでいただき、法律家になるという目標に向かって進んでいただきたいと願っています。主役は皆さんであり、我々はその道案内役を務めます。相互の信頼がよい結果をもたらすことになるでしょう。準備期間は終わりのよいよ本番です。



法科大学院長 石村 修